

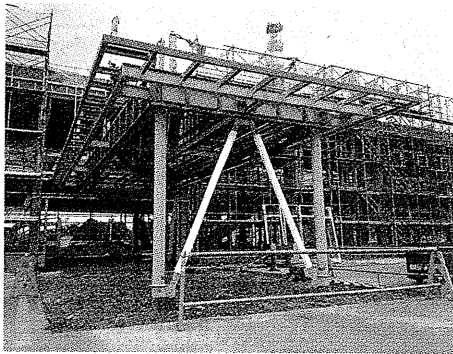
JFEシビル(社長・藤井善英氏)が現在建設中の「(仮称)埼玉アイスアリーナ」(埼玉県上尾市)に新工法・新技術が豊富に適用されている。今年度中の製品化が予定されている新タイプの高性能座屈拘束ブレース「J-UPブレース」2本が、ひさしの類杖材として適用されるほか、腰壁をシステム化したPC腰壁や壁下地のシステム化にも取り組んでいる。同社が展開する多数の工法が適用され、製品のショールーム的な役割も担う施工案件となりそうだ。

「埼玉アイスアリーナ」建設

JFEシビルの新工法適用

本件は埼玉県初の国に比べ15%程度工期を式いちいち基礎工法」裏の鋼板の間に断熱材
際規格の通年型アイス短縮できるなど経済性を用いて基礎梁と杭本を入れたサンドイッチ
リンク建設で同社のシヤ断熱性が評価され数を低減。屋根はガルパネル「KBパネル」
ステム建築「メタルピタ。基礎には同社の「バリウム鋼板を用いたで構成されている。
ル」を採用。従来工法「柱一杭工法」「キャップ」「Kルーフ」、壁は表 さらに、ピン接合鋼
管ブレースの「KTブ
ブレース」を用いること
で耐震性能も向上させ
る。また、「J-UP
ブレース」のほか柱と
梁の接合部に斜材を加
え耐震性能を向上させ
た「ニーブレース工法」
や胴縁下地のシステム
化にも取り組むなどさ
まざまな新技術を適
用。錆止めのカラーを
白にするなどこだわっ
た。竣工は今年11月の
予定で、現在順調に施
工が進んでいる。

新「座屈拘束ブレース」など



ひさしに適用された「J-UPブレース」④と「ニーブレース工法」